

週刊長野

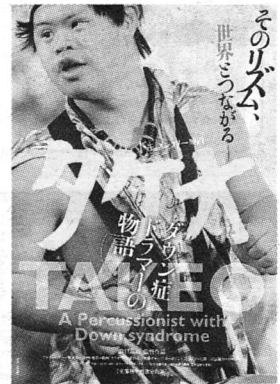
発行所／株式会社週刊長野新聞社 〒381-0036 長野市平林一丁目37番27号
☎(026)244-5946 FAX(026)243-9285

©週刊長野新聞社 2012年 ホームページ: <http://www.weekly-nagano.co.jp/> メール問い合わせは記事下参照

広告取扱／㈱ながのアド・ビューロ☎(026)291-8604／㈱共立プランニング☎(026)238-8877

㈱アサヒエージェンシー☎(026)233-2222／㈱三広☎(026)244-5515

㈱週刊長野☎(026)244-5946 広告受付/koukoku@weekly-nagano.co.jp



提供:映像グループ ローポジション

「ダウン症ド ラマーの物語」

ロキシーで上映

ドキュメンタリー映画『タケオくダウン症ドラマーの物語』(常田高志監督)がきょう3月17日(土)～30日(金)、長野相生座・ロキシーで上映されます。

今年から3月21日が「世界ダウン症の日」として国連で認定されたのを記念しての上映会

です。ダウン症は21番目の染色体が3本あり、知的障害や心臓疾患などを患うことが多い先天的な障害で、1000人に1人の割合で誕生しています。

主人公はタケオこと新倉壮朗さん(25)。ダウン症の障害があり、筋力が弱く3歳まで歩くことができませんでした。けれども幼いころから音楽が大好きで、小学6年生の夏にアフリカン・ドラムと出会い、各地でコンサート活動をするまでになりました。

エネルギーで生きたる喜びにあふれた演奏をするタケオの「いつか本場のアフリカに行きたい」という夢は、2008年に実現。西アフリカのセネガルでは、アフリカン・ドラムの第一人者ドウドウ・ンジャエ・ローズとセッションしたり、現地の祭りに飛び込んだり。現在はフォトサロンで働きながら、障害のある子どもたちと一緒に音楽を楽しむ場をつくっています。

幼いころの記録はホームビデオ、セネガル行きからは監督の常田さんがカメラを回しました。ナレーションは木島平村出身の常田富士男さん。上映時間

1時間16分。

上映期間中、ロビーで「長野県のダウン症児を持つ親たちとその応援団」の小さな展示会も予定されています。
長野ロキシー ☎232・3016

写真家と大 震災語る会

17日ふれあい福祉センター

市災害ボランティア委員会と市社会福祉協議会は、「震災は他人事じゃない! 写真家・大西暢夫さんと語ろう」(東北沿岸600キロの震災報告より)をきょう3月17日(土)13時半から、市ふれあい福祉センターで開きます。

第1部は、東日本大震災後、被災地の取材を続けている写真家の大西暢夫さんが、スライドを交えながら被災地の状況を語ります。参加者には、大西さんの著書『東北沿岸600キロ震災報告』が資料として配布されます。

和太鼓奏者・佐藤健作さんによるアトラクションを挟み、第2部は座談会「ボランティアって何だろう」。大西さんを交え、災害ボランティアの在り方を参加者と一緒に考えます。参加費500円。

3月19日(日)～30日(金)には、大西さんの写真が市役所玄関棟に展示されます。

☎227・3707